

行政視察内容報告書

令和2年12月14日

土佐清水市議会

議長 永野裕夫 様

(提出者) 会派名 議会会派みらい
氏名 山崎誠一



下記のとおり報告します。

項目	<input checked="" type="checkbox"/> 現地調査 <input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 会議への参加	<input type="checkbox"/> 要請・陳情関係 <input type="checkbox"/> その他 ()
参加者	永野裕夫 細川博史 弘田 条 山崎誠一		
	計 4 人		
期日	令和 2 年 11 月 5 日 ~ 令和 2 年 11 月 6 日		

【概要】(年月日・場所・内容・質疑)

日時 令和2年11月5日

場所 荒川電気テクニカルセンター

内容

これまで風力発電について専門の電気事業者から学習する機会がなかった。一方、本年6月には風力発電施設が自然環境に与える影響について、サンゴと森の救援隊の方から説明を受けており、今ノ山風力発電について更に詳しく環境アセスメントの内容等について学習するため、高知市瀬戸にある荒川電気テクニカルセンターを訪問し、説明を受けた。

◎説明を受けた主な内容について：環境影響調査手順、主要な現況調査の概要、事業規模等

◎質疑内容について

- 風力発電施設規模について：風車間の距離は300m～400m、羽の長さ60m。
- 羽の搬入方法について：羽の長さが60mと長い輸送は可能である。途中のカーブで曲がりにくい場所は羽の後ろ側が上がるようになっている。
- 風車設置場所の面積：17m×17m程度となる。
- 人体に影響が有ると言われている超低周波音について：20Hzで人には聞こえない音であり、環境アセスメントを行わなくても良いこととなっているが、住民からの要望もあると思われるので積極的に調査を行う。
- 今ノ山レーダー基地への風車の影響について：基地と風車の距離は1.2kmでレーダーへの支障にならないことを確認している。
- 地面を伝わる振動が住民に与える影響について：調査項目に入っていないが、調査の意向を聞くが検討するとのこと。

日時 令和2年11月6日

場所 梶原町役場・町直営風力発電設置場所（四国カルスト）

内容

梶原町役場環境整備課を訪問し、町直営の風力発電設備について、自然エネルギーによる町づくりについて学習を行った。

1. 梶原町の取組について説明を受けた内容

○梶原町風力発電所について

平成11年11月1日より運用開始

設置場所：四国カルスト

総工事費：4億4千5百万円

生産国：デンマーク製

発電能力：600Kw×2基

年平均発電量：2,165MWh

令和2年度でFIT（再生可能エネルギー固定価格買取制度の買取単価19円）が終了し、現在は、7.15円となっており、現在の2基を廃止し、2,000Kw×1基に変更するよう計画中。

感想：20年を経過し設備的には老朽化している状態であり、これまでの経済的効果が大きいようであり、積極的に新規の設備を整えている。

○太陽光発電施設の現状について

一般家庭160戸約695Kw 公共施設33施設536Kw

感想：集落全体での取組が町の活性化、経済効果を生んでいるようだった。

○水力発電所についての現状について

町直営の水力発電所があり、発電出力53Kw年平均263Mwを発電している。発電した電気を昼間は小中一貫教育校の「梶原学園」へ、夜間は町中の街路灯82基に供給している。

感想：町自体の経費を長期に賄う財源を身近な水源から生み出そうとしている。知恵を絞っているなど思う。

○ゆすはらペレットについて

平成20年4月から操業開始、年間木質ペレット1,700tを各施設の冷暖房・給湯器、木質ペレットストーブ、園芸ハウスなどに利用している。

感想：間伐材の利活用として今後伸びしろのある事業と思われた。

○環境学習の取組について

手作り太陽光発電事業や小学生の社会科見学などを実施。

感想：町民が再生可能な環境自然エネルギーを理解する様に取り組んでいるようだ。

2. 質疑内容について

○小水力発電について：補助を行っているが、民間の事業運用はなし。

- 風力発電所について：低周波音とか自然破壊といった町民からの苦情はない。
- 売電事業等の今後について：平成11年に運用が始まって20年が経過したので売電単価が19年から7.15円になった。今後新たに2Mw×1基を計画している。
- 町民への補助制度について：暖炉・エコキュート・ペアガラス等について設置の際、補助を行っている。
- 地域新電力の取組として：水力発電所で発電した電力を学校や街路灯に供給している。

3. 風力発電施設の現場視察について

四国カルストの天狗高原の天狗荘の近くに2基設置されていた。当日は冷たく風もありました。風速は何mか不明でしたが羽は勢いよく回っていました。しかし石灰岩の地面を風が流れる音はあったものの、地形的には山頂であり音が拾えないこともあったかも知れませんが、風車の真下でも嫌な雑音は聞き取れませんでした。四国カルスト台地ということで台地そのものが観光地で雄大な景観も良いのは当たり前だが、当日の天候が悪い割には県外ナンバーの車も7、8台来ており風車もまた観光施設となっているように感じた。今回は風力発電についての環境問題に重点を置いて学習した。雨は降っていなかったが土が流れて溝のようになっているとは思わなかった。環境破壊は見られない状況であった。風車周辺はコンクリートで頑丈に作られており、隣接道路も整備されていた。

4. 梶原町の取組みを参考にする事について

施設の事業概要も学んだが、これからのエネルギー問題をどう克服するのか自然エネルギーをどう造り活かしていき、自治体がそれらにどう対処するのかを学んだと思っている。風力発電所・太陽光発電所・木質ペレット及び各種の補助金制度の取込みなど、常に考えた業務を行っているように思う。本市でも太陽光発電施設を運営しているが、これから自然エネルギーに移行していく中で、災害時のエネルギーを賄う為にも津波浸水域外へ太陽光で作った電気を供給できる電気ステーションのような所・施設を作るのも悪くないのではないかと、梶原の街路に電柱がない景観を見て思った。